

## 【令和2年度MieMuの活動と運営全体の内部評価概要】

計画期間（4年）：令和2年度～令和5年度

### 1 計画の策定について

令和元年度第1回博物館協議会や県議会で示した「三重県総合博物館の5年間の総括と今後の方向性について」を基に作成した。

そこで、博物館の持つ3つの使命を達成するために、現在当館で必要な中間アウトカムを「(A) 三重の魅力を知り、(B) 博物館を利用してもらう」とした。これは、『三重県総合博物館の5年間の総括と今後の方向性について』で、課題であった①県全域への博物館活動の展開、②学びの向上、③博物館の経営にとって基礎となる活動の充実（調査・研究、資料の整理・保存）を基に策定した。この中間アウトカムを達成するために考えた戦略を6つ、それぞれに取組と結びつく戦術を15考え、計画に対して行うマネジメントを評価する戦術と戦略を加え、合計7戦略16戦術を定めた。

### 2 内部評価の概要

#### ○ 「(A) 三重の魅力を知り」について

- ・ 館内学芸員の研究成果公表数が24回、館内収蔵資料のデータベース閲覧回数は6,459回で、目標値を大きく上回った。

自然系収蔵庫内で文化財害虫が発見され、緊急に該当箇所の集中点検と被害資料の除去と清掃を行い、さらなる虫害は抑止されている。今後も確実な点検に継続的に注力する必要がある、効率的かつ確実に点検を実施していく。

博物館の経営にとって基礎となる調査・研究、資料の整理・保存活動を充実させるために、資料整理や標本作業など博物館としての調査・研究のあり方を考え、推進する体制づくりに引き続き取り組む。

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となった企画展の代わりにトピック展を実施し、館蔵資料の有効活用や総合的な展示、三重大学との連携等を行うことができた。基本展示、トピック展ともに、展示観覧者数及び観覧者アンケートでの満足度は目標値には達していないが、予算や準備時間の少なさや館蔵資料の有効活用の点を考えれば、十分に健闘したと言える。

様々な実物や考えに触れるという博物館活動本来のありかたを追求しつつ、今年度本格実施をはじめた「スタッフによる基本展示室紹介」等のオンラインで楽しめる博物館の可能性についても検討したい。

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、移動展示を中止した。  
学芸員による出張講座は、講座メニューや申し込み方法等を整備した結果、36件1,568人の利用があったが、アンケート方法が検討できておらず、令和3年度は、依頼者にアンケートへの協力を求めていく。

県内遠隔地での博物館利用をすすめるため、活動の周知とともに利用者の意見

をふまえ改善に取り組んでいく。

○ 「(B) 館を利用してもらおう」について

- ・ ミュージアムパートナーとの活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により制約を受けて事業数も減少し、企業と連携するコーポレーション・デーも、予定していた6件のうち1件（入館者 368 人）のみとなった。

研究機関等との連携について、利用者数で 28,353 人と大きく目標値を上回った。連携者である各事業の実施団体等にアンケート方法が検討できておらず、令和3年度はアンケート調査を実施していく。

三重大学と連携したトピック展「クジラはいるか!？」のように新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下であっても博物館が様々な主体と連携できる場にしていく。

- ・ 「MieMu@ほ一む」（年間閲覧数：12,533 回）を開設し、自宅等からでも博物館の情報にアクセスできる方法を充実させた。HPへのアクセス総数は直近5年間の平均以上となった。博物館の情報を利用する場としてネットにおける需要が高まったことが推察でき、講演会のYouTube配信等の新たに実施した取組を精査して、現在の状況下で求められているサービスを提供していく。

『調べ方』を学ぶことをテーマにした事業は、5事業6回を予定していたところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため2事業2回が中止となったものの対策を行い実施することができた。自ら学ぶ楽しさを伝えるため、実際に実物に出会ったり学芸員と対話したりする機会を確保するように努めていく。

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ワークショップなどを通して子どもたちに提供する学習機会は、事業の中止または定員の制限等で減少した。五感を使って体感できる事業の利用者数は目標値を大きく下回ったが、新たに解説の時間を設けるなど、きめ細かな対応を行い内容の充実をはかることができた。

こども体験展示室は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ほぼ1年間閉室し、感染予防対策等の工事を行い、令和3年3月27日に限定運用のかたちで再開した。

学校で総合的な探究の時間等を実施される探究的な活動は、県内高校9校（2,077人）を支援するとともに、そのうち5校が活動成果を発表する機会（みえむ未来創成フォーラム2020『学校と地域連携』）を提供することができた。

博物館の持つ三重の歴史・自然・文化を生かした児童・生徒の学びの場を博物館の内外に設けることで、県内地域の持続可能な社会づくりに貢献できる地元を知り学び続ける人材育成を支援していく。